

チャンス・チャレンジ・チェンジ

秋田県立養護学校天王みどり学園 加賀谷 勝



保育者の「キラリ支援」

1 不適切な行動を適切な行動にすり替える

- ・部屋にみんなが集まって先生の話聞いていたとき、元気なA君が部屋から出て行ってしまいました。そして、廊下に転がっていたバケツを発見して手に持った瞬間、ずっと様子を見ていた保育者が、「バケツをお片付けしてくれて、A君、ありがとう」とほめるではありませんか。部屋から飛び出して冒険するはずが、お礼を言わなくてもA君はニコッと笑ってバケツを片付けました。そして、みんなのいる部屋に戻りました。「部屋から出てはダメでしょ」と叱られるはずが、保育者の「キラリ支援」のおかげで、適切な行動（お手伝い）にすり替わり、「ありがとう！」と言われたA君のうれしそうなお顔も「キラリ」光っていました。



2 子どもの小さな変化を見逃さない



- ・まだお話が上手にできずに一人で遊ぶことの多いT君。この日もしばらく部屋を歩きながら、見つけた遊びが「粘土」でした。粘土が置いてある棚で遊んでいたT君を発見した保育者が、テーブルを用意して「おいしいごちそうをたーくさんつくろう」と言い、あっという間に粘土コーナーの出来上がりです。早速、T君は小さいお団子をいっぱい作り始めました。「おいしそうだね」という保育者の声に誘われて、周りの友達が集まってくるではありませんか。担任の先生は、いつもT君と一緒にいることはできません。しかし、T君の「遊びたい」という姿を見逃さず、遊びの場を設定した保育者の「キラリ支援」のおかげで、周囲の子どもたちが加わり、お団子、ハンバーガー、焼き鳥、ケーキなど、楽しいお店屋さんに変身しました。



相談・支援活動より

○持ち物に記名するのは、常識？ 非常識？

- ・Kさんは高校卒業後、社会人として生活している。しかし、いまだに全ての持ち物に記名する習慣がある。Kさんの常識が、周囲には非常識となっていることが多い。Kさんは暗黙のルールやマナーに気付きにくい特性があるため、意図的に自分の視点だけでなく、相手の視点や客観的な視点から物事を考える指導が必要である。

○「11月は辛いんです！」

- ・特別な支援を必要とする子どもをもつ保護者が、「11月は落ち込むんですよ。」と話していた。11月は各市町村で次年度の就学先を検討する就学指導委員会が開催されたり、学校では志望校を決定する三者面談が実施されたりするため、毎年この時期になると我が子のことを考えて不安になるという。11月をハードルではなく、新たなステップに変えるために、日ごろから保護者に寄り添った支援が大切である。